



中村元博士 生誕 100 年
2012年11月28日



中村元博士生誕 100 年記念事業実行委員会

<ニュースレター>

中村元博士生誕 100 年

「思想とは生活者のうめき声を聞くことである（『学問の開拓』）」

～いまに生きる思想と語り継ぎたいいのちの軌跡～

2012 年 7 月

中村元博士生誕 100 年記念事業実行委員会

本年は、世界的なインド哲学・仏教学者である故中村元（はじめ）博士（1912 年 11 月 28 日松江市生まれ、1999 年 10 月 10 日逝去、東京大学名誉教授、文化勲章受章者）の生誕 100 年にあたります。

半世紀に及ぶ博士の学究領域は実に広大なもので、古代インドを中心としたインド哲学、仏教学など東洋思想から西洋哲学まで、また比較思想、歴史学などの領域にも及んでおり、時代としては古代から現代まで、地理的には日本、韓国、中国、インドからヨーロッパ、アメリカに至っています。

思索、研究の根底には人間生活への視点があり、視線の先には「人類」や「世界」がありました。代表的著作の一つに『世界思想史』があり、この最後は以下のように結ばれています。

「思想は種々の形で表明されるけれども、人間性は一つである。今後世界は一つになるであろう。…世界の哲学宗教思想史に関するこのような研究が、地球全体にわたる思想の見通しに役立ち、世界の諸民族のあいだの相互理解を育てて、それによって人類は一つであるという理念を確立しうるにいたることを、せつに願うものである」

博士の、学問を通じた世界平和への熱い願いが込められています。

また、博士は「一番槍」という言葉を好みました。専門領域に閉じこもることなく、哲学、宗教がかかわる広範な分野に関心を持ち、自らの視点で幾つものテーマに果敢に挑戦しました。広いばかりではなく、批判を恐れず、どの領域においても斬新で、独創的・先駆的な研究を行ってきました。

著した論文、著書は英語、ドイツ語など外国語によるものも含めて 1,500 本に達します。主な著作は、『中村元選集（決定版）』（全 32 巻、別巻 8 巻）に収められています。これらは、学問世界だけでなく、一般の人々にも大きな恩恵をもたらしました。

それは難解な漢字、言葉が多く、縁遠い存在だった仏典や仏教辞典などを、日常的な現代日本語で表わすのに大きな努力を払ったことにあります。

成果の一つが、『ブツダのことば』『ブツダ最後の旅』など、一連の原始仏典の平易な言葉による翻訳です。いま一つは、30 余年をかけた『佛教語大辞典』全 4 巻です。

後者はすっかり出来上がっていた約 3 万語分の原稿を紛失されるという事故を乗り越え、その後 8 年を経て完成しました。これらの著作は、その後も改訂増補が加えられ、

いまなお多くの人々に読まれ続けています。

博士は生涯を通じて、学問の自由、普遍性を追い求める姿勢を貫きました。東京大学を退官すると、学ぶ意欲のある人であれば誰もが自由に学ぶことのできる場として、(財)東方研究会を母胎とする東方学院を東京、神田に設立。‘現代の寺子屋’と称したここで自分の研究を続けると同時に、運営し、教え、若い研究者たちの育成に努めました。

博士の人と思想を、前田専學東方研究会理事長は『中村元の世界』のなかで、バニアンの大樹に譬えました。インド各地でみられるバニアンの木は1本の木でありながら、枝、気根を伸ばし、広大な森のようになります。大きなものだと樹冠は数百メートルに広がり、木陰が人々に憩いをもたらします。このように大きく広がる博士の世界を見渡した時、その思想、世界観の根幹にあったものは慈悲でした。

自ら「ブツダに仕えた身」と言い、毎朝、自分の好んだ経文を集めた日課経を唱えた博士は、最晩年に、自ら建てた墓碑に、ブツダの慈悲の教えである「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穩であれ、安樂であれ…」の文言を刻みました。

博士が究めたのは、間違いなく奥深い学問—思想—の世界でした。しかし、それは誰にでも開かれた、一步踏み入れれば、豊かな智慧と慈しみに触れることの出来る温かな世界です。

財団法人東方研究会では、財団内外から協力者を募り、中村元博士生誕100年記念事業実行委員会を発足。2012年から2014年にかけて事業を実施していく予定です。内容は別紙のとおり多岐にわたりますので、ご興味を持たれるものがございましたらご連絡ください。写真等の画像資料データの手配を含めできる限りお手伝いさせていただきます。

報道関係者の皆さまには、ジャーナリズムの様々な視点から中村元博士生誕100年及び記念事業に是非ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本資料に関するお問い合わせ先

中村元博士生誕100年記念事業 事務局 担当：堀内、佐々木、笛木
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 財団法人東方研究会内
電話：03-3251-4081 FAX：03-3251-4082
e-mail：info@toho.or.jp <http://www.toho.or.jp/>

※お手数ですが、ご取材・ご掲載の際にはご一報賜りますようお願い申し上げます。

<参考資料>

中村元博士生誕 100 年記念事業概要

後援：外務省、文部科学省（申請中）、在日インド大使館、在日インド商工会議所、
公益財団法人日印協会、山陰中央新報

事業概要及び主な活動内容は以下の通りです。（時系列：2012 年 7 月現在）

■新聞連載「中村元・人と思想」山陰中央新報 全 50 回（4 月 6 日～2013 年 3 月島根）

博士の出身地である島根県松江市の山陰中央新報と連携し、2012 年 4 月 6 日付より、週 1 回、約 1 年間、「中村元・人と思想」と題した全 50 回の企画記事を連載しています。学問の業績を中心に中村博士の生涯を振り返りつつ、混迷の時代に、改めて博士が切り拓いた広大な思想の世界、平和への思いを郷里の多くの方に知っていただくことの趣旨です。

■中村元博士の自宅兼書斎の取材受付<事前要予約>（5 月東京）

中村元記念館へ蔵書や研究資料、遺品等を移管するに伴い、ご遺族の全面協力を得て、博士の生前の研究ぶりが偲ばれる、東京杉並区の中村元博士の自宅兼書斎（蔵書約三万冊、遺品等を保管）に本年 5 月下旬より 1 ヶ月程度、報道関係者の取材を受付けます。

■中村元記念館松江市に設立（10 月島根）

博士の生誕の地、島根県松江市では、NPO 法人・中村元記念館東洋思想文化研究所（理事長：清水谷善圭安来清水寺貫主）が 2012 年 3 月 27 日に発足。4 月 11 日には記念館の設立や運営に関し、助言や支援を行う中村元記念館審議会（名誉会長：松平直寿、会長：古瀬誠松江市商工会議所会頭・山陰合同銀行会長）が開催されました。この審議会は島根県内の文化人、経済人 23 名で構成されています。

これを受けて NPO 法人・中村元記念館東洋思想文化研究所では、博士の命日にあたる本年 10 月 10 日に、「東洋思想文化の研究と普及」を目的に、研究図書館機能を備えた記念館を松江市八束支所の 2 階に開館することと致しました。本年 7 月 2 日には、松江市市政記者クラブにおいて関係者による共同記者会見を開催し記者発表を行いました。

博士の 3 万冊に及ぶ全蔵書・研究資料、遺品などが整理収納されるほか、一般公開される博士の常設展示室や東方学院の松江校も併設される予定で、名誉館長には中村博士ご長女の三木純子氏が就任されます。

また、10月10日に予定される開館式典には、在日インド大使が列席。また第22回中村元東方学術賞授賞式も式典の一環として、場所を移し一畑ホテルで開催予定です。

■中村元博士生誕100年記念S・R・バット博士講演会（10月島根、愛知、東京）

中村博士はインドでもよく知られ、高い尊敬を受けていました。平成16年に博士の業績を顕彰するための「印仏教哲学セミナー」が、ニューデリーで開催されました。このセミナーを企画し、博士の研究者としても名高いS・R・バット博士を本年10月にインドより招聘。中村元記念館開館式典の一環として10月11日にくにびきメッセ国際会議場（島根）で講演会を開催します。その後、名古屋大学（愛知）、インド大使館（東京）の3会場で講演会を行う予定です。

■展覧会「ブッダのことば～いまを生き抜くために～」（10月島根、以降巡回予定）

インドの仏跡写真で著名な写真家、丸山勇氏を迎え、中村博士の邦訳した「ブッダのことば」を中心とするインド思想の核心をなすことばと丸山氏の写真で構成。前田専學博士と奈良康明博士が「ブッダのことば」等にわかりやすい解説を付し、写真とともに展覧します。2012年10月の中村元記念館での開館特別展を手始めに、2013年～2014年にかけて奈良、静岡、長野、岩手、東京の6都市を巡回する予定です。

企画・運営協力（財）NHKサービスセンター

■中村元博士生誕100年記念出版協力（10月全国、一部韓国）

（1）新刊

- 履歴・業績完成版の刊行（財団法人東方研究会）
- 『韓国人の思惟方法』の韓国語訳刊行（ソウル大学出版文化院）

（2）復刊・普及版の刊行

- 復刊 ①『インド哲学思想』全5巻（岩波書店）
- ②『学問の開拓』（ハーベスト出版）
- 普及版 ③『日本人の思惟方法』④『ゴータマ・ブッダ』⑤『仏弟子の生涯』
- 新装版 ⑥『温かなこころ』（③～⑥いずれも春秋社）

（3）映像アーカイブ

- DVD『NHKこころの時代 中村元 ブッダの人と思想』全6巻
（NHKエンタープライズ）2012年2月発売済

■中村元博士生誕100年記念仏教書フェアを開催（10月～11月全国）

①青土社、②岩波書店、③河出書房新社、④春秋社、⑤誠信書房、⑥筑摩書房、⑦東京書籍、⑧法蔵館、⑨講談社、⑩吉川弘文館をはじめ仏教目録刊行会(代表幹事、大法輪閣)などの協力を得て、中村元博士生誕100年記念仏教書フェア「慈しみのこころ」実行委員会が4月に発足。7月現在、参加出版社は20社を超えました。中村博士の著書をより広く届けることのみならず、昨今求められている啓蒙書を含めた広義での宗教書、人文学書も網羅。博士の著書にこだわらず東洋思想文化一般を視野に入れたブックフェアを全国の書店100店舗で開催予定です。

■比較思想学会中村元博士生誕100年記念シンポジウム（2013年東京、2014年島根）

中村博士が設立した比較思想学会(会長:末木文美士国際日本文化研究センター教授)では、2013年に予定される第40回創立記念大会の際に、博士の開拓した東洋思想、比較思想、世界思想史の発展を目指すためのシンポジウムを併催します。

また、2014年第41回比較思想学会を松江で開催予定です。

■日本印度学仏教学会第64回学術大会（2013年島根 8月31日、9月1日）

日本印度学仏教学会（会長：斎藤明 東京大学大学院教授）では、財団法人東方研究会（理事長：前田專學）を開催校とし、第64回学術大会を松江で開催する予定です。会場には島根県民会館およびサンラポーむらくも（研究発表会場）、一畑ホテル（懇親会会場）が予定されています。

以上

<参考資料>

中村 元 (なかむら・はじめ)

財団法人東方研究会・東方学院創立者。インド哲学、仏教学者。

勲一等瑞宝章。文化勲章。東京大学名誉教授。日本学士院会員。インド大統領より名誉文学博士など各国の大学の名誉学位。イギリス王立アジア協会、ドイツ学士院など各国のアカデミーの会員。松江市名誉市民。

《略歴》 1912年(大正元年)11月28日、島根県松江市殿町に生まれる。1941年(昭和16年)、東京帝国大学大学院博士課程修了。1943年(昭和18年)、東京帝国大学助教授。文学博士。1951年(昭和26年)、アメリカ・スタンフォード大学より客員教授として招聘。1954年(昭和29年)、東京大学教授。1970年(昭和45年)、財団法人東方研究会を創立。1973年(昭和48年)、東京大学定年退官。この年、東方学院を設立。1974年(昭和49年)、比較思想学会初代会長。1975年(昭和50年)、『佛教語大辞典』刊行。1994年(平成6年)、第24代史跡足利学校席主。1999年(平成11年)10月10日、逝去。享年86歳。

《主な著作》 『初期ヴェーダ哲学史』全4巻(『シャンカラの思想』と併せ、現在は『インド哲学思想』全5巻)。『東洋人の思维方法』*全4巻。『ゴータマ・ブッタ』*全2巻。『インド史』*全3巻。『近世日本の批判的精神』*。『慈悲』。『比較思想論』。『論理の構造』。『学問の開拓』。『ブッタのことば』・『ブッタの真理のことば 感興のことば』・『ブッタ最後の旅』(翻訳)。『広説佛教語大辞典』全4巻。『決定版』中村元選集』全40巻(*は選集に収録)。

前田 専學 (まえだ・せんがく) 中村元博士生誕100年記念事業実行委員会委員長

財団法人東方研究会理事長・東方学院長。インド哲学、仏教学者。

東京大学名誉教授。武蔵野女子大学名誉教授。Ph.D.文学博士。史跡足利学校席主。勲三等旭日中綬章。北京中国社会科学院名誉研究員。タイ国衆議院仏教事業委員会功労賞。

《略歴》 1931年(昭和6年)生まれ。1955年(昭和30年)、東京大学文学部印度哲学梵文学科卒業。1961年(昭和36年)、ペンシルヴァニア大学大学院東洋学科修了。1964年(昭和39年)、ペンシルヴァニア大学大学院助教授。1973年(昭和48年)、東京大学助教授。1982年(昭和57年)、東京大学教授。1991年(平成3年)、武蔵野女子大学教授。1994年(平成6年)、武蔵野女子大学副学長。1999年(平成11年)、東方研究会常務理事。第19期日本学術会議会員。2007年(平成19年)、東方研究会理事長・東方学院長。

《主な著作》 *Shankara's Upadeshasahasri, Critically ed. with Introduction and Indices.*

A Thousand Teachings. 『ヴェーダの哲学』。『インド的思考』。『ブッタを語る』。『インド哲学へのいざない』。『インド思想史』(編共著)。『ウパデーシャ・サーハスリー』(翻訳)。

奈良 康明 (なら・やすあき) 中村元博士生誕100年記念事業実行委員会副委員長

財団法人東方研究会常務理事。仏教学者。

駒澤大学名誉教授。文学博士。財団法人仏教学術振興会理事長。勲三等瑞宝中綬章。

《略歴》 1929年(昭和4年)生まれ。1956年(昭和31年)、東京大学大学院印度哲学博士課程修了。同年、カルカッタ大学大学院比較言語学博士課程に留学(～1960年)。1960年(昭和35年)、駒澤大学非常勤講師。以降、専任講師、助教授を経て、教授。1994年(平成6年)、駒澤大学学長(～1998年)。2000年(平成12年)、曹洞宗総合研究センター所長(～2006年)。2005年(平成17年)、駒澤大学総長(～2007年)。2007年(平成19年)、東方研究会常務理事。2012年(平成24年)、仏教学術振興会理事長。

《主な著作》 『仏教史I—インド・東南アジア』。『釈尊との対話』。『仏教と人間—主体的アプローチ』。『観音経講義』。『般若心経講義』。『ブッタの詩—智慧と慈悲の形』。『自己をわすれる』。『ブッタの世界』(共著)。『禅の世界』(編共著)。